

平成29年度 第4回 九州工業大学 経営協議会 議事次第

日 時 平成30年1月17日(水) 14:00~16:00  
場 所 飯塚キャンパス 第1会議室

開 会

- 議長挨拶
- 欠席者等の案内
- 平成29年度第3回議事要旨の確認

〔審議事項〕

- (1) 平成30年4月の学科改組に伴う学則の一部改正について

〔報告事項〕

- (1) 平成30年度国立大学法人運営費交付金の予算案等について
- (2) 平成30年度役員及び部局長等の任命等について

〔その他〕

- (1) 共同研究講座の紹介について

(2) 活動紹介

- ①情報工学研究院 システム創成情報工学研究系 システム制御部門  
中茎 隆 准教授  
「ペッパーを活用したプログラミング授業」
- ②情報工学研究院 電子情報工学研究系 エレクトロニクス部門  
小田部 荘司 教授  
「長期実践型インターンシップ」
- ③情報工学研究院 システム創成情報工学研究系 システム応用部門  
齊藤 剛史 准教授  
「九工大生と学ぶ子ども科学実験教室」

- (3) 平成29年度経営協議会の開催日程について

議長謝辞

閉 会

## 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（平成29年度第4回）

1. 日 時 平成30年1月17日（水）14：00～16：40
2. 場 所 飯塚キャンパス 第1会議室
3. 出席者 麻生委員，池上委員，井上委員，工藤委員，久保田委員，高原委員，辻委員，松岡委員（五十音順）  
学長，理事（教育・学生担当），理事（研究・産学連携担当），  
理事（企画・財務・評価担当），理事（総務・労務担当），  
工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 林田監事，副学長（入試・広報担当），副学長（情報担当），  
教養教育院長

### 5. 新年の挨拶

学長から，会議に先立ち新年の挨拶として，昨年を取組と今年の抱負について，話があった。

### 6. 会議成立

構成員18名のところ，16名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

### 7. 議事録の確認

平成29年度第3回経営協議会（平成29年10月17日）の議事要旨の確認について説明があり，了承された。

### 8. 審議事項

#### （1）平成30年4月の学科改組に伴う学則の一部改正について

総務課長から，平成30年4月に工学部及び情報工学部を改組することに伴い，両学部の学科の構成及び定員等を定める学則を含め，所要の一部改正を行うことについて説明があり，審議の結果，原案どおり了承され，役員会に付議することとした。

なお，次のとおり意見があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

- ： 改組による学科名変更により，名称と学ぶ内容の乖離がなくなり，社会から，教育・研究内容が理解しやすい学科名になったと感じた。
- ： 大学院については，改組を行う予定か。また，コースについては，どの時点で学生はコースを選ぶのか。教員については，所属が替わるのか。
- △： 大学院については，改組を検討している。これに連携して，工学府については，さらに研究しやすいように専攻を横断するような形態を検討している。両学府ともに，大学院では，柔軟に多様なことが学べるようにしたい。

学部改組による教員配置については，工学部の宇宙システム工学科は，新たに設置するため，関係する教員が他学科から異動し，新たに教員も

採用する予定である。

情報工学部についても、新たなコースに対応するために、異動が行われる予定であり、学科名の変更だけでなく、教員の対応も変更している。

5つの類に分かれているが、入学後、本学で学びながら自分の将来を考えて学科・コースを選択できるように、工学部・情報工学部ともに、2年次で決めることとしている。

○： 学科名称を考える場合に、何か規制はあるのか。

△： 規制はないが、特殊な名称は、社会的に理解が得られにくいので、皆様からご意見をいただきながら検討してきた。

○： 学科に、「工学科」というのは必要か。また、社会から、学科の名称が、学科の内容について理解を得られにくい名称のように感じる。

△： 単に“～学科”とすれば、文系と思われることも一因である。

名称については、社会から学科の内容が理解を得られるように広報活動をしていきたい。

## 9. 報告事項

### (1) 平成30年度国立大学法人運営費交付金の予算案等について

理事（企画・財務・評価担当）から、平成30年度国立大学法人運営費交付金予算案等について、機能強化促進分を除き予算の示達があった旨報告があり、次のとおり意見があった。

（○：学外委員，△：学内委員）

○： 授業料免除というのは、どのような仕組みで配付されてきているのか。授業料免除申請に係る審査基準は、家計評価額か成績評価か。

△： ベースは、本学の推薦により配付されており、その中で政府から学生支援という形で加算されて配分されてきている。

授業料免除申請に係る審査基準は、家計評価額で行っている。その中で成績評価が好ましくない場合は考慮しているが、ほとんどは家計評価額で行っている。

### (2) 平成30年度役員及び部局長等の任命等について

学長から、平成30年度役員及び部局長等の任命等について報告があった。

## 10. その他

### (1) 九州工業大学・明専会学生プロジェクトについて

配付したパンフレットに基づき、九州工業大学・明専会学生プロジェクトについて、紹介があった。

### (2) 共同研究講座の紹介について

学長から、平成29年度に設置した、共同研究講座の企業について紹介があった。

### (3) 活動紹介について

飯塚キャンパスにおける特色ある教育研究に取り組む教育職員から、自身の活動について説明があった。

説明後、外部委員からは、次の意見等をいただいた。

(○：学外委員，△：学内委員等)

- ：九州工業大学情報教育支援士とはどのような資格か。
- △：本学独自の資格で、国家資格ではない。法改正により、履修証明制度として、大学独自でこういった資格を出せるようになった。年間200時間以上の専門の講義を受けてもらい、履修証明書を発行している。  
現在は、残念ながら、すぐに収入を得られる資格ではないが、定年後、地域に貢献したいという思いで技術を学ばれている方が多い。  
また、若い方も多い。国の制度として、認められればよいと考えており、それに向けて努力している。
- ：素晴らしい取組をしている。九州工業大学情報教育支援士も、定年された方の健康寿命を延ばす一助になっていると感じた。  
取組内容は、飯塚市のイメージアップにもつながっている。
- ：飯塚市プログラミングコンテストとはどのようなコンテストか。
- △：ペッパーを用いて、「○○に役立つペッパー」のプログラミングを行うもので、部活部門では、「○○を笑顔にするペッパー」というテーマでコンテストを行った。漢字検定を受けるような内容を考えた小学校があった。
- ：家に帰って一人でゲームをする子供が多いと聞くが、このコンテストは誰でも参加ができ、さらにチームワークも育まれるので、大変良い取組だと感じた。
- ：長年、九州工業大学情報教育支援士を育成してきたことに感服する。学校現場で、子供達へのコンピュータ教育を行うにあたっては、外部人材の登用が必要となるのではないかと感じた。
- ：チャレンジして失敗しているいろんなことを学べることや社会経験ができることがすごく良いと思った。飯塚市ともっといろんな取組が出来ればよいと感じた。
- ：いわゆる学生による起業の場合、学生が学んだことと世の中のことを結び付けて、さらにお金を稼ぐことを考えることが大事で、アメリカで学生が起業する仕組みやシリコンバレーのような起業が起きたことが理解できた。  
このケースの場合、学生が自分で考えて実践していくことが新しい技術革新につながっていけば、さらに良いのではないかと感じた。
- ：利益ができれば、学生に還元し、損失が出たら、学生が責任を負うよう

な仕組みにすれば、お金を稼ぐことに、必死さが出て、もっと成果が上がるのではないかと感じた。

- ： 他大学や他学科とも一緒にインターンシップができるような環境になれば、プロジェクトの完成度の上がるのではないかと感じた。
- ： 大学の将来として、勝ち組に残るのは非常に難しいことだ。国公立大学に対する補助金を削減され、また、大学数が多いのではないかと、ということが話題になっている。その中で勝ち残るためには、尖った部分を持つことが大切で、情報工学部として、この分野が強いとか、グローバルなネットワークがある等の強みの部分を磨かないと難しいと思う。情報工学部はいろんなチャンスがあると思うので、地元もサポートするため、尖った特徴を病院等と連携すれば、なおさら残る可能性もあがってくるので、勝ち残りは大変難しいが、ぜひ強みの部分を尖らせて欲しい。

#### (4) 平成29年度経営協議会の開催日程について

総務課長から、今回は、平成30年3月15日（木）に戸畑キャンパスにて開催することについて説明があった。